

いちじくの新梢誘引と害虫防除

令和2年6月18日
加須農林振興センター

〈新梢誘引の目的〉

- ①枝の揺れを抑えます。
→果実の品質低下（スレ果）を抑えられます。
- ②果実に光が届きます。
→果実品質が向上します（着色向上等）。
- ③枝葉の混雑を解消し、風通しをよくします。
→果実品質が向上します（スレ果減少、着色向上、病虫害の発生抑制）。

〈誘引の時期〉

新梢の葉が10枚～12枚展葉し、新梢長が40～50cmに達した頃に誘引を始めます。

〈誘引の仕方〉

図1のように、新梢の間隔が片側50cm(千鳥で約25cm)になるように誘引します。支柱やマイカ線にひもで誘引します。あとでひもがくい込まないように、余裕を持たせて結びます。

また、マイカ線の場合は、緩む場合があるため、適時点検をしましょう。

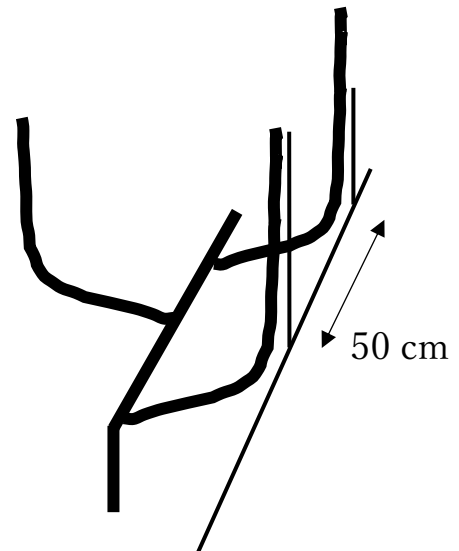
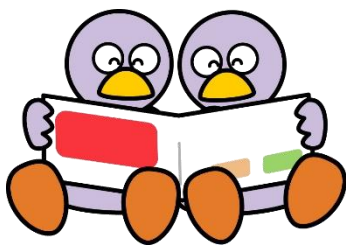


図1. 誘引間隔



埼玉県マスコット「コバトン」

〈害虫防除〉

・カミキリムシ類

いちじくで問題となるのは主に、クワカミキリムシとキボシカミキリムシです。クワカミキリムシは6月下旬から9月上旬、キボシカミキリムシは6月上旬から9月末に発生します。クワカミキリムシは直径が2 cmほどの新梢に産卵します。キボシカミキリムシは凍害等を受けた弱った樹に産卵をします。ほ場で見かけたら捕殺しましょう。



図2. カミキリムシ類による被害樹

防除方法

- 捕殺
- 産卵痕の中の卵をつぶす
- 薬剤散布
- 樹を弱らせない

・アザミウマ類

すでに、アザミウマ類の発生が始まっています。発生初期の防除が大切になりますので、防除を徹底しましょう。いちじく果実の目が開き始める前（6月上中旬）には防除しましょう（表2参照）。

表1. 令和2年度アザミウマ類発生状況例
(加須農林振興センター調べ)

調査月日	5/7	5/14	5/21	5/28
アザミウマ類 付着数(頭)	96	228	193	526

*:管内のいちじくほ場1か所に青色粘着板(およそ200m²)を3つ設置し、1週間ごとに表裏に付着したアザミウマ類の頭数を測定した。

表2. カミキリムシ類・アザミウマ類対策の農薬例

薬剤名	対象病虫害	希釈倍率	収穫前日数	使用回数
モスピラン顆粒水和剤	アザミウマ類、 キボシカミキリ	2000倍	収穫前日まで	3回以内
ダントツ水溶剤	アザミウマ類、 カミキリムシ類	2000倍	収穫3日前まで	3回以内

- 農薬使用の際は、ラベル表示(使用基準)だけでなく、購入後に変更された最新情報の有無を確認してから使用しましょう(表は令和2年5月27日現在の登録内容)。
- 農薬の飛散防止に努めましょう。
- 農薬の使用記録簿をつけるよう努めましょう。